

## 平和資料展

～美ら海の遺物・異物～



沖縄戦では1㎡あたり何千発あるいは、何万トンの砲弾が撃ち込まれたと言う。陸上だけでなく、海に囲まれている沖縄では海の中にも、砲弾などの沖縄戦の時に使われたと思われる幾つものモノが回収を待って65年余の間、静かに眠っている。

昨年は宮城島の沖合では1トンの不発弾の処理が行われる等うるま市も沖縄戦時の遺物（不発弾）で騒然となった。

今年度の平和資料展は、私達が普段あまり目にする事ができない海の中に残る沖縄戦の遺物と沖縄の海の様子とおし、改めて沖縄戦と、現在の沖縄の海について考えてみる機会としたい。

### 【と き】

6月15日(火)～7月11日(日)  
午前9時～午後5時  
月曜休館

### 【ところ】

市立石川歴史民俗資料館

### ◆ 関連イベント

比嘉座(代表:比嘉 陽花)による  
演劇公演(館内にて)

### 【公演日程】

6/20(日)、26(土)、27(日)、  
7/3(土)、4(日)、10(土)、11(日)  
14:00～14:15、14:30～15:00  
(2回公演)

### \*一人芝居

「木に育てられた子ども」  
「伊波の魔法使い」

### 6/23(水)

11:00、13:00、15:00、17:00  
\*一人芝居「帽子クマー」

18:00

### \*短編芝居

「伊波の魔法使い」「ぱちろまめ  
ぱぴる」「遺言」「フェンス」「まぶ  
いぐみ」「豆腐狂騒曲」

### ◆ お問合せ先

市立石川歴史民俗資料館  
☎965-3866

# 「戦跡」が伝える沖縄戦

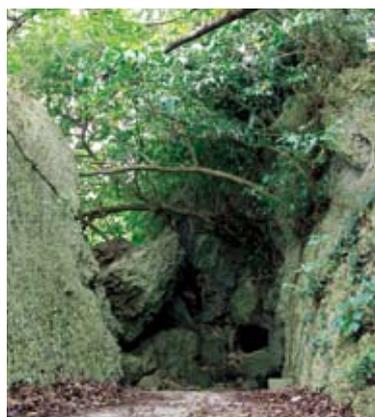
ここ沖縄には、戦時中、住民が避難したガマや日本軍が構築した陣地など、沖縄戦を伝える「遺跡」が数多く残っています。

私たちの住むうるま市にも、戦時を物語る「遺跡」が数多く残されており、それらは、戦争の悲惨さ、怖さ、そして命の尊さを次の時代へ引き継ぐための「記録」として大切に保存されています。

## 具志川の戦争遺跡

### ● 具志川グスクの壕

米軍上陸後、グスクの西側端の壕には、南部へ移動した日本軍から、手榴弾2個ずつ渡されたムラの青年男女が立てこもった。昭和20年4月4日、23人の学徒、青年で構成する警防団は侵攻してきた米軍と手榴弾で応戦したが、最後は残った手榴弾で「自決」、13人が死に至る。現況は、壕は崩壊しており、火炎放射を受けたといわれる壕や周辺岩肌は、今なお黒い焼け跡がみられる。現地には集団死の説明板が建立されている。



## 勝連の戦争遺跡

### ● 津堅の新川・クボウグスク周辺の陣地壕群

新川・クボウグスク周辺には日本軍が構築した場所がいくつも残されている。新川グスクの岩山をくりぬき構築された3階構造の「三六陣地壕」。中城湾に進入する艦船に対する攻撃陣地として構築されていた新川グスクの「野砲陣地壕」。津堅島駐留の日本軍部隊の糧秣倉庫と野戦病院として使用された「A1・A2陣地壕」などがあつた。当時、激しい戦闘の行われた場所である。

## 石川の戦争遺跡

### ● 嘉手苺のヌチシヌジガマ

ヌチシヌジガマはメヌティラ、ナカヌティラ、クシヌティラといわれる3つの壕口があり、中では1つにつながっている。沖縄戦当時、メヌティラには嘉手苺の住民が160人余、ナカヌティラには郵便局員や伊波集落の住民、クシヌティラには伊波の住民50人ほどが避難し、1人の犠牲者も出さず「命をしのいだ」ガマとして知られている。



## 与那城の戦争遺跡

### ● 与那城監視哨

与那城監視哨は、防空監視のために使用され、当時は、与那城警防団を中心に監視の任務にあっていた。監視哨内には、電話機、双眼鏡、時計、方位板、防寒具、航空機器識別飛行機の模型、羅針盤などの備品が国の負担で設置されていた。

